日本プライマリ・ケア連合学会
中国ブロック支部

発行人:中国ブロック支部長　松下明
（岡山家庭医療センター 奈義ファミリークリニック）

【m-HANDS 2022 第 1 回の報告】

中国ブロックでの指導医養成の報告
出雲家庭医療学センター大曲診療所　藤原和成
広島大学病院 総合内科・総合診療科　小林知貴
岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック　松下明

【m-HANDS-FDF】
（modified - Home and Away Nine DayS – Faculty Development Fellowship）
7 年間にわたって継続してきた中国ブロックの指導医養成コースです。今年度もオンライン開催となりました。
8 月から 3 月まで、月に 1 回全 8 回のコースとして実施しています。
今年度も、JPCA-ML などで募集して中国地方の指導医 3 名が参加中です。3 名にはチームとして様々な課題に取り組んでもらっています。
以下に第 1 回に参加してくれた指導医からの報告の一部を掲載します。
2023 年度も引き続き開催を予定しています、ご興味のある方はぜひご連絡下さい。

〈目的〉
中国ブロックの指導医の養成とプログラム運営の質向上を通して、プライマリ・ケアの普及と発展をめざす
〈対象〉
・中国ブロックに所属しており、家庭医療後期研修を修了した医師
・中国ブロックの家庭医療後期研修に関わる指導医
〈アウトカム〉
Core Competence：Adult Educator(成人学習支援者)
学習者と向き合い、その学びに気を配り、学びの場をサポートできる
教育者の役割と限界を知り、学習者と協同的に学び、生涯学習者を育てる姿勢で関わる
学習者の学びを促進するための理論と技術を適切に用いることができる 参加者と講師による学習共同体の形成を勧め、ブロック内の指導医ネットワークを作る
机上のプログラム作成だけでなく、各現場での仕組みづくりや教育チーム形成ができる
総合診療の魅力やプログラムの魅力を効果的に伝えられる発信力や求心力を発揮できる
ツールの活用や工夫などで独創的で質の高い遠隔教育ができる

第 1 回 オンライン開催　2022 年 8 月 20 日

【青年の主張】
それぞれの自己紹介を行った後、参加者に対し、「医学や仕事以外」の内容について説得、共感、賛同を得ることにより何らかの具体的行動を引き起こすことを目的として実施されるプレゼンテーションを行った。発表に

対し、それぞれ参加者からのフィードバックを行い、発表者に共有した。事前の準備の段階で、短時間で効率的にプレゼンテーションを行う方法の検索やスキルについて学習を行い当日実践した。オンラインでの発表の弱点や準備に関しても学習となった。コルクボードを用いたプレゼン方法は目を引き印象に残った。(植本真由)

【FD 概論とエンプロイアビリティ】
ＦＤ概論とエンプロイアビリティについてレクチャーをいただいた。医師免許は最強のポータブルスキルと言え、医師はエンプロイアビリティが高いということを認識した。どこでも働けてしまう人を引き寄せるためにはエンプロイメンタビリティを向上させる必要があり、その手段の一つとして、FD(Faculty Development)が重要であると知った。FD により、「効果的な医学教育」ができる指導医が育つことで、プログラムや専門領域の質が向上し、魅力的な現場となる。m-HANDs もまた FD の一つであり、m-HANDs を通して、個々のレベルアップとともに、総合診療・家庭医全体のレベルアップに貢献できればと感じた。（陣内聡太郎）

【ファシリテーション】
ファシリテーションの 4 つのステップ（共有、発散、収束、決定）に沿って議論した。最初にファシリテーションの 4 つのスキル（場のデザイン、対人関係スキル、構造化、合意形成のスキル）を確認した。議題は「診療所で患者さんからの差し入れを受け取ることの是非」だった。メンバー全員の経験談を持ち寄り、是非の境界線を模索していった。no blame culture で経験を共有し、発散と収束を行き来しながら、結論を導くことができた。金銭など資産になるようなものは受け取るべきではない、農作物など受け取る際は一人が独占せず、原則として皆で共有する、という結論に至った。全メンバーからバランスよく意見を引き出すこと等、各々が感じた課題に取り組み、次回で共有しようと話になった。(藤原匠平)

【フィードバック】
　事前に、自分が受けた印象に残っているフィードバック場面についてワークシートに記入し、当日はその内容について説明、参加者同士で意見交換を行い、議論やキーワードの抽出を行った。参加者それぞれの印象に残ったフィードバックが興味深く、特に“ツンデレフィードバック”や“禅問答フィードバック”など様々なタイプのフィードバックを知り、多角的な視点からフィードバックの理解を深めることができた。型通りのフィードバックを行っても長く残るわけではない、指導される側との関係性作りが大切、フィードバックの場所・時間・相手のレジリエンスを考慮するなど、フィードバックの理解や実践に必要な知識を確認できた。（植本真由）

第 2 回は 2022 年 9 月 17 日（土）を予定しています

【開催報告（広島県）】
令和 4 年 9 月 17 日（土）に、「県内の総合診療を考える意見交換会」を開催しました。
広島県は全国でも 2 番目に無医村地区の多い県であり、広島県における総合診療医の育成は大きな課題であると考えています。そこで、豊田地域医療センターから大杉泰弘先生をお招きして、「県内の総合診療医を増やすための工夫について」と題してご講演をいただきました。広島県からは、県職員や大学関係者、研修施設の職員など、現地とオンライン合わせて約 40 名が参加しました。講演後は、総合診療医を増やすためにはどのような取り組みが必要なのか、さまざまな立場から活発なディスカッションが行われ、今後の広島県としての取り組み非常に参考となる会となりました。

県内の総合診療を考える意見交換会

日　　時：令和４年９月 17 日(土）15：00～16：40

会　　場：サテライトキャンパスひろしま 502 大講義室

開催方法：ハイブリッド（現地とオンライン開催）

今活躍している総合診療指導医の講演を聞いてみませんか？

プログラム

【講演】
藤田医科大学　総合診療プログラム豊田地域医療センター副院長
総合診療科部長　大杉　泰弘先生
テーマ「県内の総合診療医を増やすための工夫について」

【参加者同士での意見交換会】
テーマ「総合診療医の指導について」

文責：広島大学病院　総合内科・総合診療科　小林知貴